シニアの社会参加情報誌

２０１１．３月春号

かだる

輝くシニア

寺町一座が使用する、メンバー手製のチンドン太鼓

「チンドン芸　賑やかに、華やかに」
全国アマ競演会で最優秀賞
寺町一座（大船渡市）

大船渡市のチンドングループ寺町一座は昨年１１月、群馬県で開催された全国アマチュアちんどん競演会 in 前橋で最優秀賞を受賞しました。

寺町一座は２００３年、大船渡市日頃市町で「長安寺太鼓」のメンバーが中心となって結成。メンバーは、サクソホンの菊乃家鈴丸＝鈴木正利座長（６３）、踊りの杉山信治郎さん（６６）、口上の山下哲夫さん（６４）、ギターの佐藤忠清さん（６３）、ゴロス太鼓の杉山政雄さん（６３）、チンドン太鼓の新沼健一さん（58）です。結成当初は、チンドン歴８０年の菊乃家〆丸さん（東京都）から直接指導を受け、練習を開始。楽器（クラリネット、ギター、サクソホン等）は独学で始め、７年目にして２年連続日本一の快挙を成し遂げました。

寺町一座のみなさんは、仕事を終えてからほぼ毎日、地元の公民館に集まり、「生涯現役！」を目標に掲げ、賑やかなチンドン屋の練習に励んでいます。

昨年は県内外の各種イベント、披露宴等に約 50 回出演。「チンドン屋は子どもからお年寄りまで喜んでくれる。人に喜んでもらえるのがなにより嬉しい。」と、鈴木座長はやりがいを語っています。「演奏が上手いだけではだめ。古めかしさ、味わい、情緒、そして賑やかさが必要。」と奥深さも指摘。一方、練習風景はいつも和気あいあいとして和やか。冗談を言ったつもりがそのセリフをそのまま口上に用いる等、気負いなく続けている様子が伺えます。

「チンドン屋と長安寺太鼓が地域の人たちの絆を結んでいる。このことは私たちの誇りであり、一番大切なことだと思う。」と、地域に根ざすことの大切さを語っていました。

寺町一座へのお問い合せは、鈴木座長０１９２－２７－９７０５へ。

＜全国ちんどん競演会で最優秀賞を受賞した大船渡市の寺町一座の皆さん＞

高齢者の社会参加支援セミナーを実施しました！

日本の美徳を若者へ継承しよう！　高齢者の社会参加支援地域セミナー（宮古市）

平成２３年２月８日（火）、宮古地区合同庁舎で「高齢者の社会参加支援地域セミナー」を開催しました。

当日、沿岸地区から約６０名の方々が参加。講師は高田自動車学校代表取締役社長で、ケセンきらめき大学学長の田村満さん。「高齢者の社会参加と生きがい」～みんなで地域おこし～と題し、講演しました。

田村さんは、気仙地区と、宮古市の人口統計を比較しながら、現在岩手県全域で抱える、若者の人口減少に伴う課題について触れました。「地域の資源を活用すれば、仕事はつくれるはず。そうすれば若者は戻って来やすい。高齢者のみなさんにもできます。」と熱く語りました。また、強さや賢さより、「唯一変化できるものが生き残る。」とダーウィンの言葉を引用し、変化への対応の重要性を指摘。更に、「日本は無形文化の宝庫。美を求める心、平和を尊ぶ心、道徳心等はどこの国にも見られない。これら無形のものが、一生懸命、仲間を助けるといった形に現れる。高齢者の方々は今の若者にこのような文化を広げて頂きたい。」と、述べました。

岩手の現状と未来について熱く語る田村満さん

講演の後は、沿岸地区で活動する３団体、人形劇団どっこいしょＫ（釜石市）、認知症にやさしい地域支援の会（陸前高田市）、男のエプロンクラブ（宮古市）が活動紹介を行い、会員同士が支え合い、生きがいをもって活動している様子を語りました。

参加者からは「講師の熱い思いが伝わってきた」などの声が寄せられました。

人とのかかわりは“差し上げる”が大事　高齢者の社会参加支援セミナー（盛岡市）

平成２３年２月１５日（火）、アイーナ６階で「高齢者の社会参加支援セミナー」を岩手県男女共同参画センターとの共催で開催しました。

約８０名の方々が参加し、講演、寸劇を通しシニアの社会参加について考えました。

講師は、シニア元気笑学校（仙台市）校長の渡辺源治さん。「高齢者の生きがいづくり　はじめる・続ける・楽しむ」～実践例を通じたセカンドライフの楽しみ方、過ごし方を学ぶ～と題し、シニアの生きがいをテーマに様々な角度から話しました。

渡辺さんは、シニアが気軽に集い、学ぶ場を提供することを目的に、５年前、仙台市にシニア元気笑学校を創設。その功績が認められ、内閣府から平成２２年度社会参加活動事例として表彰されています。

講演では、随所にユーモアを交えながら話し、会場は終始和やかな雰囲気でした。渡辺さんが主宰するシニア元気笑学校の仲間づくりの例を挙げ、「気が合う人が集まればよい。３人からでも団体はできる。」と述べ、さらに、「やることがある」、「行くところがある」、「会う人がいる」と、生きがいのキーワードを３つ挙げました。そして、笑顔、傾聴から始まり、ボランティア、町内会活動、役員等に積極的に参加し、自ら損をする「差し上げる」気持ちが大事と強調。それがめぐりめぐって自分に返り、支え合いに繋がると渡辺さんは言います。

講演の後は、ＪＡもりおかハートフル劇団による寸劇が披露されました。認知症をテーマにした劇を、コメディ風に、方言を交えながら上演しました。

参加者のアンケートでは、今後聞いてみたい話しとして、「社会参加事例」、「仲間づくり」という意見が多く寄せられました。シニアの社会参加について多くの関心が寄せられていることが伺えます。

シニアの生きがいについてユーモアを交えて語る渡辺源治さん

地域の話題

移送ボランティアグループ（平泉町）

平泉町社会福祉協議会では、「高齢者の通院送迎を行ってほしい」との要望が多く寄せられていたことを受け、運転ボランティアを募りました。平成１０年、応募者により「移送ボランティアグループ」（千葉秋雄会長　会員１２名）が発足。会員は６０代後半から８０歳のシニアで構成されています。月曜日から金曜日の５日間、福祉車両３台を使用して、地元高齢者の通院送迎を行っています。利用者は現在４７名。ボランティア運転手は交替制でシフトを組み、一人のボランティアが稼働する日は、月２～３日。この１２年間の活動が認められ、内閣府から平成２２年度社会参加活動事例として表彰されました。

通院送迎のボランティアを始めた理由として、会員の方は、「やがて世話になるんだから、地域のために何かやりたいと思った。そして、自分がやることで、次の若い人たちへつながると思う。」と話しています。そして、この通院送迎の活動の場が、利用者、ボランティアともに生きがいの場となっています。

同会へのお問い合せは、平泉町社会福祉協議会０１９１－４６－５６５３まで。

内閣府から表彰を受けた移送ボランティアグループの皆さん

ひばり会（盛岡市）

月一回のイベントに参加する利用者の皆さん

ひばり会（吉田照子代表　会員１０名）は、身体に障害をもつ高齢者を対象に機能訓練サービスを行っています。

病気の後遺症などで手足が不自由になると、家に閉じこもりになりやすい。それを解消しようと、「ふれあいランド」を利用し、毎月、ボール体操、輪投げなどの他、利用者と共に料理をつくって食事会なども行います。その他、年に２、３回、バスで県内観光。「利用者は、なかなか出歩くこともないため、このような機会に、岩手の美しい四季の自然を目にすることができて本当に喜んでいます。」と、吉田代表は話します。イベントの際は、利用者、会員共に協力し合い、支え合いながら行っている様子が見られ、「定期的な楽しみがあると生きがいになる。それから自然にお互いを支えあうようになった。」と会の様子を語りました。

現在、盛岡市の見前、永井地区の方々が利用。「参加者が増えればまた楽しくなる。」と利用者の参加を募っています。

同会へのお問い合せは、吉田照子代表０１９－６９６－２８３３まで。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

コラム　～書籍紹介～

■「たっぷり生きる」

角川学芸出版　・　日野原重明・金子兜太

対談は平成 21 年の暮れに行われた。対談時の年齢は日野原重明 98 歳、金子兜太は 90 歳。今も、日野原は聖路加国際病院理事長を、金子は朝日俳壇の選者を務める。対談司会者からは、ともに「現代の快（怪）老人」と言われ、多くの分野で活躍する医学者日野原と野性的で定型にはまらない俳人金子との対談は、高齢者の心構えという点で刺激と示唆に富む。

対象的な二人だが、戦争体験などに裏打ちされて、ともに求めるのは「平和」。日野原の「創めることさえ忘れなければ、人はいつまでも若い。」という言葉が特に心に残る。

パソコン豆知識（４）

前号に引き続き、県内在住でブログを公開しているシニアの方々を紹介します。

★「まだ７６歳じゃん日記」遠野市在住 hisa さん
http://appoye.blog.ocn.ne.jp/70/
身近な話題、ニュースなどジャンルにこだわらず気さくに語る、とても親しみやすいブログです。

★「毒沢からのロハスな便り」花巻市毒沢在住
http://mahorobadokusawa.cocolog-nifty.com/
定年退職し、田舎暮らしの様子、趣味、コミュニティ活動をブログに公開しています。

★「自然に魅せられるブログ」昆寛さん
http://blog.kirinkan.biz/
山菜、きのこ、釣りの採取風景や、自然の風景をリアルタイムで公開しています。

シニアの仲間作り

老人クラブ全国優良表彰「男の料理教室」

釜石市甲子町洞関地区の老人クラブ「松の実会」（川村金次郎会長、会員 43 人）は、平成２２年 11 月に全国老人クラブ大会で優良老人クラブ表彰を受けました。健康、友愛、奉仕という老人クラブの理念を実践にいかし、地域行事へ積極的に参加すると共に、健康づくりとして仲間と共に 10 年余にわたり続けてきた男の料理教室の活動などが高く評価されたものです。

【調理に腕をふるう「男の料理教室」の皆さん】

洞関地区では、昭和 39 年に老人クラブが結成されました。もともとは農村地帯でしたが、製鉄所や鉱山、バス会社などを退職した人たちなどさまざまな経歴の人たちが老人クラブに集い、多彩な活動が展開されるようになりました。生涯学習の機運のなかで、高齢者教室が開催され、教養、健康問題等の勉強会も開催されています。

男の料理教室は、保健師、栄養士を招いての健康講座の中から、特に奥さんに先立たれた人のために、などの趣旨も踏まえて開催されたのが始まりです。栄養士の指導の下、年に５回開催。地元産の食材、季節の食材を中心に、調理のあとの試食会が大変楽しいとのことです。平成 21 年に発行された文集「10 年の思い出」からは、７名の男性会員のそのような料理の楽しさを語る思いが伝わってきます。

また、奉仕活動では、介護保険施設「仙人の里」での草刈などの作業のほか、町内会の諸行事、ＰＴＡと連携しての世代間交流事業なども積極的に行っています。

川村さんは、「仲間の絆を大切に、とにかく楽しくやりたい。」と語っています。

【奉仕活動で集まった松の実会の会員の皆さん】

お知らせ

いわてシニア通信員の募集

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、「いわてシニア通信員」を募集しています。

「いわてシニア通信員」はサポートセンターに登録し、地域や高齢者についての情報を提供していただきます。投稿していただいた情報は、サポートセンターのホームページ内「いわてシニア便」に掲載。どなたでも自由に閲覧できます。

様々な情報を多くの方々に楽しく活用していただきたいと思います。

＜シニア通信員がサポートセンターへ提供する情報例＞

サークルや活動仲間を募集、四季折々の風景写真、昔懐かしい方言、出来事、地域の情報、地域の活動団体など。

是非、「いわてシニア通信員」として登録いただき、様々な情報を投稿いただきたいと思います。

「行ってみたい、知りたい、参加したい」そんな情報を掲載し、豊かなシニアライフのためのヒントとしていただきたいと思います。

シニア通信員の登録、お問い合せは、
高齢者社会貢献活動サポートセンター
０１９－６０６－１７７４まで。

企画・発行/岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター　平成 23 年３月 10 日発行
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ６階　Tel　019-606-1774　Fax　019-606-1765
E-mail　koreisha-hfk@aiina.jp　URL　http://www.aiina.jp/advancedage/index.html

特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託運営しています。
〒020-0021 盛岡市中央通 3-7-30　Tel　019-604-8862　URL http://www.hfk.or.jp/